企業を訪ねて5

株式会社有沢製作所（エレクトロニクス関連材料などの製造･販売業:上越市南本町1丁目5番5号）

急速な経済環境の変化の中で、毎日気を休める暇がない

1月16日、株式会社有沢製作所に相談役の有沢栄一氏を訪ねた。創業明治42年で、現在様々な新素材の開発を行い、世界に優れたエレクトロニクスなどの製品を届け続けている応接室には、時代の重みが感じられた。

聞き手◆創業から現在に至る会社の歩みは。

有沢氏◇創業の明治42年から始めたバテンレース（机のセンターなどに置かれる刺繍織物）の製作で培った技術が戦前にグラスファイバーと出会い、昭和24年に有沢製作所が設立されました。その後、新たな技術革新を進め、「織る、塗る、形づくる」という一貫した製造ラインと独自の技術力を築き上げ、ユーザーニーズに応えて来ました。現在は、パソコンや携帯電話などのエレクトロニクス関連材料やプロジェクションテレビ用フレネルレンズなどのオプトエレクトロニクス関連材料、電気絶縁材料、産業構造材料など、幅広く製造するようになっています。

◆現在デジタルハイビジョンテレビが普及していますが、有沢製作所では3Dパネル生産によってそれを更に進化させ、立体テレビの開発をされているとのことですが、それはどのようなものでしょうか。

◇メガネを掛けて見ると前に飛び出してくる映像技術は今までに見られましたが、今開発しているのは奥行きの出るものです。今年の12月のクリスマス商戦から本格販売するためには、この夏頃から生産開始をしたいと考えています。当社のXpolというフィルムを既存のテレビ画面に貼るだけで立体画像が見られるようになる方式は、今後アメリカをはじめとして我が国でも普及するものと期待しています。

◆様々な技術開発を継続的に行って来た有沢製作所の企業精神・モットーについて教えてください。

◇創造（=Creation）と革新（=Innovation）と挑戦（=Challenge）というCIC精神に則った技術型企業を目指してきました。具体的な行動規範としては、

①少々の失敗は構わないから、物事を速くやる。
②前向きに行った仕事の失敗はとがめない。
③目立つ仕事をした人の足を引張らない。

を会社のモットーとして来ました。

有沢栄一氏　時代を先取りして来た顔と手が印象的

◆昨年9月中旬からの世界規模のものづくり環境の激変への対処は、どのようになされているのでしょうか。

◇過去47年間は順調に売り上げを伸ばしてきましたが、昨年の夏頃から日を追うごとに受注がダウンして来ています。そのため、派遣社員・期間社員については、契約期間を延長せずに契約満了としています。年明け後、受注が激減しているので、これまでの土日休みに加え金曜日と月曜日の操業を停止し、一時帰休を開始し、雇用調整金の受給、役員の賃金カットなどを行うことにしています。会社があってのことですので、この危機を乗り越えるためにはやむを得ないと考えています。

◆新潟工科大の設立の時からお骨折り頂き、現在も理事を務めて戴いていますが、大学に希望されることがありましたらお聞かせ下さい。

◇製造業会社に学生が就職して来ても、大学で学んできたことは殆ど役に立たない。学校は社会に出てからの勉強、研究の方法を勉強する所だから先生の研究を手伝わされて来ただけでは、問題解決能力は身につかない。大学は学生がいて成り立つのですから、研究よりも学生の教育に力を注いで貰いたいと常日頃考えています。

◆…

対談のために予め資料を用意して戴き、お忙しいところ１時間以上も色々とお話を伺いました。そのほんの一部しか掲載出来ませんでしたが、日々果敢に挑戦している有沢製作所の一端を知って戴ければと思います。